

セルフジャッジの方法

プレーヤー・チームが判定とコールすることをセルフジャッジと言い、以下のとおり行なう。

- 1) サーバーはサーブを打つ前に、レシーバーに聞こえる声で、スコアをアナウンスする。
 - 2) ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。ボールがラインにタッチしたとき、ボールラインの間に空間が見えなかった時、あるいはボールを見失って判定できなかったときは「グッド」である。ボールとラインの間に、はっきりと空間が見えた時は「アウト」または「フォールト」である。
 - 3) 判定とコールは、相手にはっきりわかる声とハンドシグナルを使って、ボールの着地後速やかに行う。代表的なハンドシグナルは、人差し指を出して「アウト」「フォールト」を示し、手のひらを地面に向けて「グッド」を示す。
- × 4) -削除-
- 5) ダブルスの判定とコールは、1人のプレーヤーが行えば成立する。しかし、ペアの判定が食い違った場合はそのペアの失点となる。ただし、ネット、ストラップまたはバンドに触れたサービスを、1人が「フォールト」、パートナーは「レット(グッド)」とコールした場合は「(サービスの)レット」となる。
 - 6) クレーコートでは、相手プレーヤー・チームにボールマークの確認を要求できる。必要であれば相手コートへ行ってボールマークを見てもよい。相手と判定が食い違った場合はレフェリーが最終判定する。両者が示すボールマークの位置が食い違う場合、あるいは判定できるほどのボールマークが残っていない場合は最初のコールが成立する。ただし、必要以上にBMIを申し出るプレーヤー選手には、レフェリーが適切な処理を取る場合がある。クレーコート以外はボールマークのチェックを行うことはできない。
- × 7) -削除-
- 8) インプレー中、他コートからボールが入って来るなどの妨害が起こった場合は、「レット」とコールしてプレーを停止し、そのポイントをやり直す。「ポイントをやり直し」は第1サービスから。第2サービスのモーションに入る前だったら第2サービスから)
 - 9) インプレー中、プレーヤーがラケット以外の着衣・持ち物を相手コート以外の地面に落とした場合は、それが1回目ときは、レットをコールしてプレーを停止し、そのポイントをやり直す。2回目以降、落とすたびにそのプレーヤーが失点する。レットのコールは、落とし物をしたプレーヤー・チームがコールすることはできない。相手プレーヤー・チームが妨害を受けたと判断した場合に限りコールできる。ただし落としたことがプレーに影響を及ぼしていない場合はポイントが成立する。
 - 10) スコアが分からなくなった時は、双方のプレーヤーが合意できるスコアまでさかのぼり、それ以降のプレーで双方が合意できるポイントを足したスコアから再開する。合意できなかったポイントは取り消される。ゲームスコアが分からなくなった時も同様に処理する。再開する時のエンドとサーバーは合意されたスコアに準ずる。ただし、ゲームスコアが訂正され、再開する場合のサーバーは、次の順のサーバーに交代しなければならない。(同じプレーヤーが2ゲーム連続サーバーにはなれない。)
 - 11) 次の場合は、レフェリーまたはロービングアンパイアに速やかに申し出る。
 - ① 試合中、トイレ、着替え、ヒートルールなどでコートを離れる時
 - ② 相手プレーヤーの言動やコール、フットフォールト等に疑問、不服がある時
 - ③ プレーヤー同士で解決できないトラブルが起こった時
- ※小平市民大会では、筋ケイレンやトイレタイムの中断は1回のみ5分以内に限り認めます。
- ※小平市民大会では、テニス協会の運営役員がレフェリー、ロービングアンパイアを担当します。
- 12) メディカルタイムアウトを取りたい時は、レフェリーまたはロービングアンパイアに申し出る。トレーナーのいない大会ではプレーヤー自身が手当てをすることができるが、レフェリーまたはロービングアンパイアによって、手当を必要とする状態かどうか確認後、その許可を得て3分以内に処置を行う。
 - 13) 試合終了後、勝者は大会本部に試合ボールを届け、スコアを報告する。
 - 14) 各判定とコールをする権利者は以下の通りとする。
 - a 「フォールト」「アウト」「グッド」はネットから自分側のプレーヤー・チームのいずれか
 - b 「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「ファウルショット」は両プレーヤー・チーム
 - c 「フットフォールト」はコート内にいるレフェリー(アシスタントレフェリー)、ロービングアンパイアのいずれか
 - 15) オーバールール
「イン」「アウト」のオーバールールは巡回しているレフェリー(アシスタントレフェリー)、ロービングアンパイアのいずれかが行える。
 - 16) 妨害によるレットのコール
 - a コート外からの妨害による「レット」のコールは両プレーヤー・チームができる。
 - b 対戦相手による無意識の妨害(落とし物1回を含む)は妨害を受けたプレーヤー・チームのみ「レット」をコールできる。2回目以降は故意に妨害したとして失点する。
 - c 対戦相手からの故意の妨害「ヒンダランス」は、妨害を受けたプレーヤー・チームからの申し出によりレフェリー(アシスタントレフェリー)、ロービングアンパイアが判断する。ただし妨害を認知しながら意識的にプレーを続行した場合は妨害と見なされない。
 - 17) 誤ったコールを直ちに訂正した場合。

インだったボールを誤って「アウト」とコール(ミスジャッジ)したが、直ちに訂正(コレクション)した場合は、1回目は故意でない妨害としてポイントレットにする。ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウィニングショットまたはエースだった場合は、ミスジャッジをしたプレーヤーの失点となる。そして2回目以降は故意に妨害したとして失点する。